

稲作情報

No. 9 「穂肥対応～病害虫対策」

えちご中越 さんとう営農センター
TEL：0258（41）2887

令和7年 7月 1日

注意 今後1ヶ月の気候は晴天・高温が続く見込みとなっています!!
ほ場ごとの生育診断にもとづき「**しっかり穂肥施肥**」しましょう!!

速報

コシヒカリの生育状況（6月30日調査：地区別平均値）

6月後半も平年より気温の高い気象傾向が続いたことから、水稻の出穂期は、早生・中生・晩生品種ともに**平年に比べて“2日以上早まる”見込み**です。

【管内平均値と指標値の比較】

- ・草丈：指標値比 117%「長い」
- ・茎数：指標値比 93%「並」ほ場間差：大
- ・葉数：指標値差 +0.6葉「やや早い」
- ・葉色：指標値差 -0.6「並」ほ場間差：大

葉数進捗からみると「指標値並」です。

★注意★ 急激な葉色低下～栄養凋落が懸念されます。
ほ場ごとの生育（草丈・葉色）を適切に診断して「**しっかり穂肥施用**」を心がけましょう!!

地区	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
北 部	5/ 6	64.2	476	10.4	38.6
中 部	5/ 8	58.4	399	10.1	37.1
こしじ	5/14	56.3	424	10.3	39.5
平 均	5/ 8	60.8	444	10.3	38.4
指標値	5/10	52.0	480	9.7	39.0

出穂期が早まっています。ほ場ごとの間差が大きいので、生育をよく見て遅れずに穂肥を施肥してネ!!

1. 穂肥施用

(1) 幼穂形成期及び出穂期予想と穂肥時期・施肥量の目安（令和7年6月30日現在）

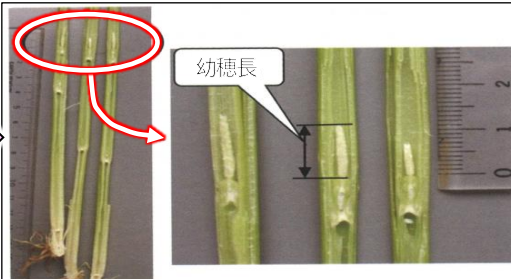
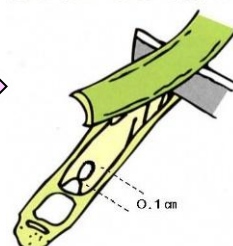
品種名	幼穂形成期	出穂期	10a窒素成分 (2回の合計)	施用時期の目安 * ()は出穂前日数	
				1回目	2回目
ゆきみらい	6月24日	7月17日	5～6kg	6/25 (23)	7/ 4 (13)
五百万石	6月26日	7月19日	1～2kg	6/30 (20)	7/ 7 (12)
わたぼうし	6月27日	7月20日	2～3kg	6/28～30 (22～20)	7/ 8～10 (12～10)
ゆきん子舞	6月29日	7月22日	5～6kg	6/28～30 (25～23)	7/ 8 (14)
こしいぶき	6月29日	7月22日	2～3kg	6/30 (23)	7/ 8 (14)
ゆきの精	6月29日	7月22日	2～3kg	6/28～7/2 (25～20)	7/ 8～12 (14～10)
たかね錦	6月30日	7月23日	1～2kg	7/ 3～ 5 (20～18)	7/ 9～13 (14～10)
こがねもち	7月 5日	7月28日	1～3kg	7/10～13 (18～15)	7/18 (10)
コシヒカリ	7月10日	8月 2日	1～3kg	7/15～18 (18～15)	7/23 (10)
にじのきらめき	7月10日	8月 2日	2～5kg	7/ 3～ 8 (30～25)	7/19 (14)

※ 適用移植期は、早生品種：5月1日～5日、中生品種：5月10日～15日移植です。今後の天候や生育状況、ほ場条件等により出穂期・幼穂形成期が前後しますので、必ずほ場ごとに幼穂を確認して、穂肥時期を判断して下さい!

(2) 幼穂長と出穂前日数の目安

出穂前日数 (日)	幼穂長 (cm)
24	0.1
20	0.2
18	0.5～1.0
12	4.0～6.0

カッターなどで割る



※ 平均的なイネ：数本から総合的に判断して下さい。

タメ水厳禁

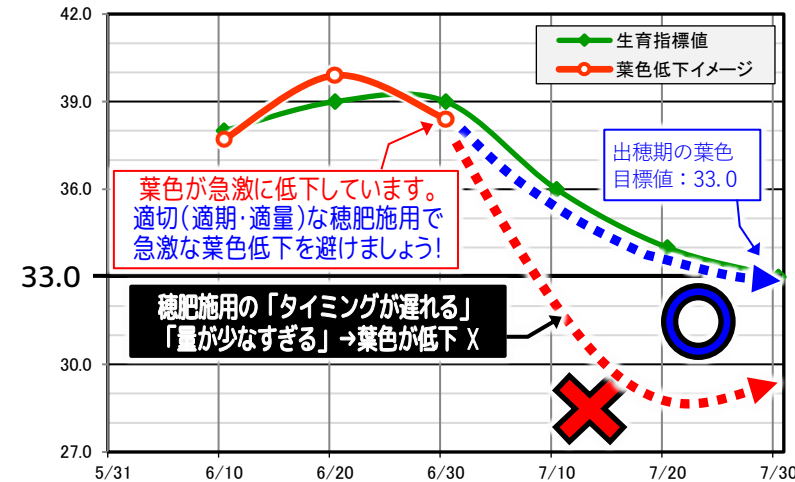
高温・多照の影響によりほ場内の水温が上昇しています!!

(3) 1回目穂肥施用時の生育めやす（中晩生品種）

項 目	コシヒカリ	新之助	越淡麗
草丈 (cm)	70～75	66～72	75
茎数 (本/株)	22	35	23
葉数 (葉)	11.5	11.5	12.5
葉色 (SPAD)	34	33～36	36

※ 窒素の多用は、病害虫の発生を助長します。→ 必ず病害虫の発生状況を確認して下さい。

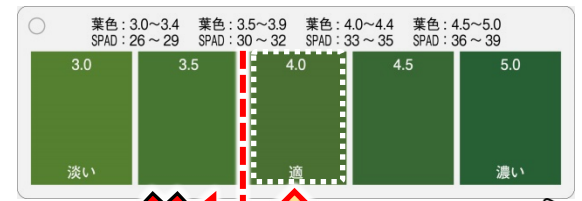
(4) コシヒカリの葉色管理のポイント



コシヒカリは、7月10日頃に「幼穂形成期」となります。この時期に行う生育診断結果と、左表の1回目穂肥施用時期の「生育めやす」を参考に、施肥時期・施肥量を判定しましょう!!

幼穂形成期から出穂期にかけて、葉色値が33以下とならない「タイミングと量」での確な穂肥を実施して下さい!

* 基肥一発施肥の場合も同様に、葉色低下時には追加穂肥を施用して下さい。



この葉色値を下回らないように…
適期・適量の穂肥対応としましょう!

2. SDGs な後期水管理

幼穂形成期を迎えています。直ちに「飽水管理」へ移行しましょう!!

- ① 中干し以降は、田面が強く乾くことのないよう飽水管理（土壌が潤っている状態）を徹底・継続します。また、高温・フェーン時には高温による障害を回避・軽減するために、なるべくこまめにかん水します。（「入水」⇔「落水」を繰り返し行って下さい!）
- ② 幼穂形成期以降は、極端に強い中干し（断根を助長）、長期間にわたるタメ水管理（根腐れを助長）は厳禁です! → 「SDGs な水管理」：水は貴重な資源＝かけ流しに注意して下さい。
- ③ 地耐力を確保できる限り、なるべく登熟後期まで飽水管理を継続することにより、土壌水分と後期栄養を維持し、フェーン現象等による土壌乾燥を防止（～高温障害を回避）します。⇒ 「最終かん水日」は出穂後25日以降を目安とし、あわせて暗渠栓の開放を可能な限り遅くします。

3. 病害虫対策

注意 「葉いもち」の感染拡大に注意・警戒して下さい!! 注意

- (1) 葉いもち：6/11・16に近隣地域でいもち病感染好適条件が発表され、当地域の一部でもいもち病の発生が確認されております。ほ場内をこまめに観察して、葉いもちの発生を確認した場合には早急に薬剤防除を実施して下さい。【● 特別栽培米：カスミン液剤、◆ 一般米：ブラシン剤】
- (2) イネ墨黒穂病：イネ墨黒穂病により汚損した玄米製品は、農産物検査で「規格外」となることから、わたぼうし・ゆきみらいのイネスミ防除を「必須防除」に位置付けて防除の徹底を呼び掛けています!!

★重要★ 防除適期：出穂20日～10日前 防除薬剤：オリブライト250G(豆つぶ)

(3) 斑点米カメムシ類

7月5日(土)～7月12日(土)
第2回「一斉草刈りウィーク」です!!

農道畦畔の重点対策雑草

7月以降は「メジバ」を重点に雑草管理を徹底しましょう!

★ 一斉草刈りウィーク後も引き続き“雑草種子が結実しない間隔”で雑草管理を徹底して下さい!!

～営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ～
次回稲作情報：7月中旬「生育状況、穂肥対応、病害虫対策」（予定）

裏面もいっしょに読んで!!

★★★ 草丈と葉色で「穂肥を施用する時期と量」を診断しよう! ★★★

穂肥施用のポイント

1回目：幼穂形成期（幼穂長0.1cmの時期）を確認して施肥時期・施肥量を決定する。早生の場合は、適期を逃さず施用する。コシヒカリの場合は、幼穂形成期に生育診断し、時期と量を判断する。

【手順1～4】（草丈が長い、葉色が濃い場合は施用を控える。→ 施肥量を減らす、施用時期を遅らせる。）

2回目：後期栄養維持のため、確実に施用する。

※ 出穂前10日以降の穂肥は、食味を低下させるので原則施用しない。ただし、葉色が極端（SPAD 32以下）に低下している場合や登熟期間の高温予想時には、出穂前までに生育にあわせて追加穂肥を施用する。

※ 穂肥は必ず湛水して施用する。

～～ コシヒカリ穂肥施肥の心得 ～～

★その1:0回目は、ムリせずほ場内の生育（葉色）をそろえるイメージで!!

★その2:0回目は、稲体の活力維持～玄米の登熟向上に向けてしっかり施肥します。
SPAD 値32以下は栄養失調状態です!!



© ワンジャ

手順1：幼穂形成期の確認（幼穂長が0.1cmの時期）

① 平均的な生育の稲株：3株を選ぶ。

② 株の中で長い茎を2～3本選び株元から茎を引き抜き幼穂を確認する。

③ 調査株の8割以上が幼穂長0.1cm以上になった日を幼穂形成期とする。

出穂前日数 (日)	幼穂長 (cm)
24	0.1
20	0.2
18	0.5～1.0
12	4.0～6.0

幼穂形成期

幼穂形成期の生育診断をもとに1回目の穂肥時期・施肥量を判定し、穂肥を施用します!!

手順2：草丈と葉色を測る

幼穂形成期（幼穂長0.1cm、出穂前24日ころ）に草丈と葉色を測定する。

① 草丈

ほ場内の平均的な生育箇所で、連続して10株程度ものさしで測る。

② 葉色

平均的な生育の稲で最も長い茎を選び、現在伸びている葉の2枚下の葉を計測する。（10株程度）

※ 葉色板から1cm程度離して色を比較する。

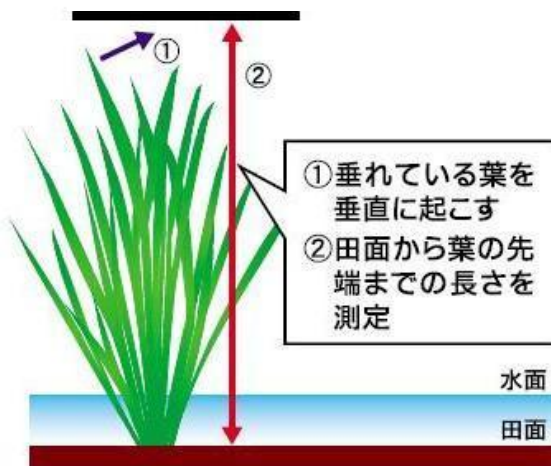


図1 草丈の測り方

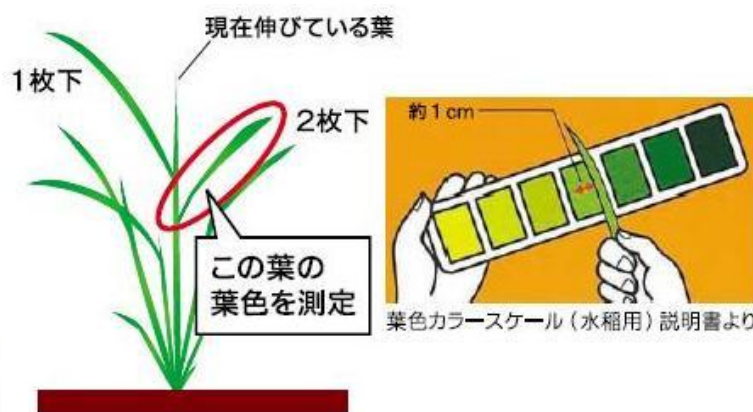


図2 葉色の測り方

手順3：グラフにあてはめる

草丈と葉色から、下記グラフのエリア（A.B.C）を確認する。

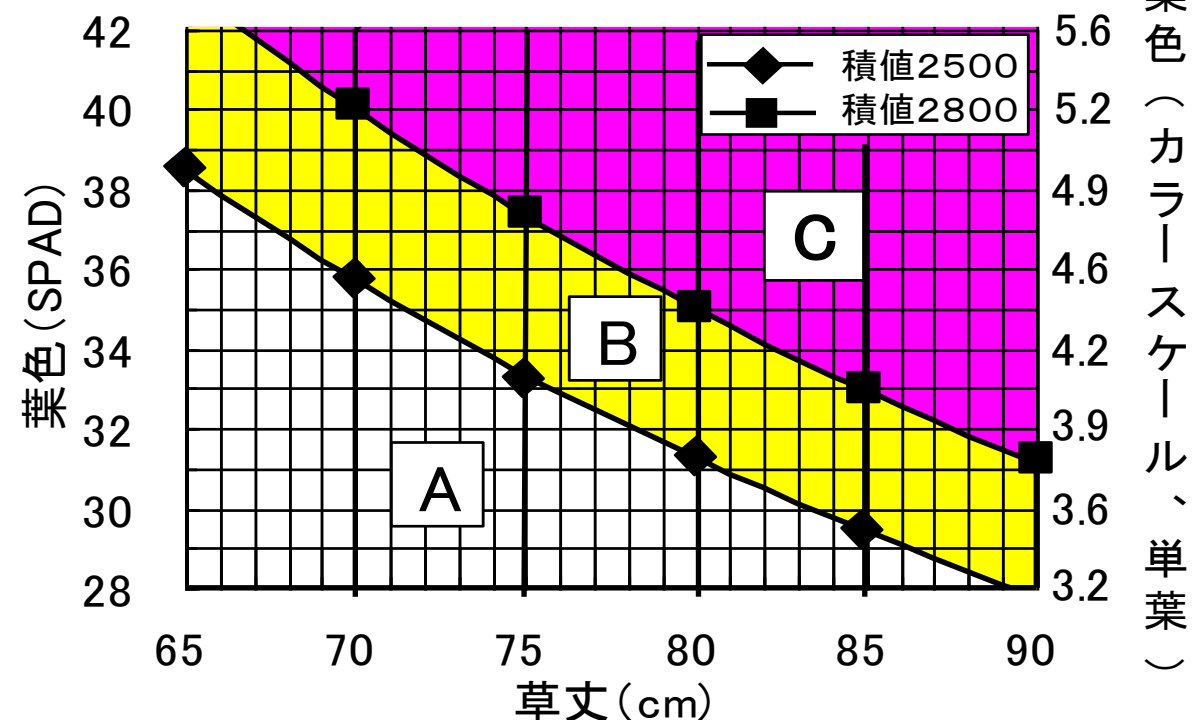


図3 幼穂形成期の生育量（草丈と葉色の積値）早見グラフ
積値：草丈（cm）× 葉色（SPAD）

手順4：コシヒカリ1回目の穂肥の判断

グラフエリア（A.B.C）と幼穂伸長期の1カ月気象予報をふまえて判断する。

6月26日発表：向こう1ヶ月の平均気温「高い確率：80%」→ 今年はこのエリアで判断して下さい。

幼穂形成期の生育量 (草丈cm × SPAD値)	生育 早見グラフ	幼穂伸長期の気象予報別の穂肥対応		
		低温・少照・多雨	平年並	高温
2500未満	A	○△ 時期遅め、量を控えめ	◎出穂18日前に基準量	◎出穂18日前に基準量
2500以上 2800未満	B	× 施用しない	× 施用しない	○出穂15日前に基準量
2800以上	C	× 施用しない	× 施用しない	×△施用しない ただし、異常高温の場合は、15日前に基準量

【参考：特別栽培米での10aあたり合計穂肥量の目安】・・・ 生育量に応じて施肥量を調整しましょう!

元肥の種類	元肥施用量	越後の輝き有機50穂肥	参考：元肥との施用窒素の合計
越後の輝き	30 kg	30 kg	6.6 kg (うち、化学由来窒素 3.18 kg)
有機元肥50エコ	35 kg	25 kg	6.5 kg (" 3.14 kg)
越後の輝き有機50	40 kg	15 kg	6.6 kg (" 3.22 kg)
スーパー元肥ロング	50 kg	5 kg	6.6 kg (" 3.24 kg)

※育苗箱等の施用肥料を含め、**トータル化学由来窒素量を3.5kgN/10a以下の範囲内に調整してください!**